

議会だより

第9回揖斐川町議会 定例会

平成19年第9回揖斐川町議会定例会が12月7日(金)から14日(金)までの8日間の会期で開催されました。初日には、提出された22議案のうち、規約の変更や人事案件など6議案が可決され、条例と予算、請願に関する16議案は常任委員会に審査を付託されました。

10日(月)に総務文教、11日(火)に健康福祉、産業建設の各常任委員会が開かれ、付託された議案が審査されました。

13日(木)には、6名の議員が町政について一般質問を行いました。

最終日の14日(金)には、付託された議案の審査結果が各常任委員長から報告され、この日追加で提出された15議案とあわせて審議されました。審議の結果、継続審査とされた請願以外の案件はすべて原案どおり可決されました。

本定例会では、2件の意見書が議員から発議され、いずれも内閣総理大臣をはじめ関係大臣へ提出することが議決されました。

提出された議案、一般質問とその答弁の主な内容は次のとおりです。

条例

次のとおり条例の制定と一部改正、廃止がされました。

○ 揖斐川町ふじはし星の家の設置及び管理に関する条例の制定について
徳山ダムの工事事務所として貸与していた宿泊研修施設(旧杉原小学校校舎)が返還されるのを機に、管理運営方法等が定められました。

○ 揖斐川町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について
揖斐川町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について

○ 揖斐川町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例について
これら3条例は「地方公務員の育児休業等に関する法律」の改正を受け、長期にわたって育児と仕事を両立できるように、育児のための短時間勤務制度を導入するなど所要の改正がされました。

○ 揖斐川町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
国の「一般職の職員給与に関する法律」の改正に伴い、給料表の一部改定、子や父母等に係る扶養手当の月額500円引き上げ、勤勉手当の年間支給月数0・05月分の引き上

げなどの改正がされました。

○ 揖斐川町常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

○ 揖斐川町議会議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例について
これら2条例は、国の「一般職の職員給与に関する法律」の改正に伴い、期末手当の年間支給月数が0・05月分引き上げられました。

○ 揖斐川町簡易水道施設設置条例の一部を改正する条例について
有鳥、古屋・初若、諸家の各専用水道が飲料水供給施設とされました。

○ 揖斐川町オフトーク通信施設の設置及び管理に関する条例等を廃止する条例について
揖斐川町放送通信ネットワーク施設の運用に伴い、次の3条例が廃止されました。

・ 揖斐川町オフトーク通信施設の設置及び管理に関する条例

・ 揖斐川町坂内情報ネットワーク施設の設置及び管理に関する条例

・ 揖斐川町横山テレビ共同受信施設の設置及び管理に関する条例

○ 補正予算

次の8会計予算の補正が行われました

○ 家族の一行詩

『母へ』 中学2年 ほそ細野 めぐみ

『母へ』 中学2年 ほそ細野 めぐみ

最近では怒った顔しか見ていない気がするけど、原因は私なんやよね・・・。

た。
 ○ 平成19年度揖斐川町一般会計補正予算について
 県営土木事業負担金など9841万2000円を増額し、総額156億3086万4000円とされました。

○ 平成19年度揖斐川町いび川温泉特別会計補正予算について
 職員の異動により人件費を142万3000円減額し、総額1億2858万円とされました。

その他の案件

○ 平成19年度揖斐川町国民健康保険特別会計補正予算について
 医療費の増加などで2067万8000円を増額し、総額26億1308万7000円とされました。

○ 西濃環境整備組合規約の変更について
 監査委員は、識見を有する者及び組合議員のうちからそれぞれ1人選任することに変更されました。

○ 平成19年度揖斐川町国民健康保険直診勘定特別会計補正予算について
 医薬品購入費など209万4000円を増額し、総額1億3918万9000円とされました。

○ 揖斐広域連合規約の変更について
 医療制度改革による処理事務が追加され、3町の負担区分が定められました。

○ 平成19年度揖斐川町谷汲中央診療所特別会計補正予算について
 ○ 平成19年度揖斐川町農業集落排水事業特別会計補正予算について

○ 揖斐川町固定資産評価審査委員会委員の選任について
 固定資産評価審査委員会委員に次の方を選任することに同意されました。

○ 平成19年度揖斐川町公共下水道事業特別会計補正予算について
 ○ 平成19年度揖斐川町徳山ダム上流域公有地化特別会計補正予算について

○ 揖斐川町横蔵財産区管理委員の選任について
 横蔵財産区の管理委員に次の方を選任することに同意されました。

これら4特別会計は歳出科目間での補正が行われました。いずれも総額の増減はありません。

○ 工事請負契約の変更について
 次の工事の請負契約が変更されました。

林 幸義さん (北方)
 竹中章雄さん (谷汲大洞)
 藤原大光さん (春日小宮神)
 羽實正弘さん (三倉)
 中川千吉さん (西横山)
 奥田豊歳さん (坂内広瀬)

森 亜都子さん (春日六合)

・ 北和地区農業集落排水事業
 H19-1工区 (上南方) 工事
 変更前 8085万円
 変更後 8467万6200円

・ 北和地区農業集落排水事業
 H19-3工区 (極楽寺) 工事
 変更前 6736万4850円
 変更後 7329万2100円

・ 北和地区管路施設北方1区工区を

○ 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
 人権擁護委員に次の方を推薦することに同意されました。

○ 意見書
 議員発議で2件の意見書を国へ提出することが議決されました。

意見書

○ 揖斐川町横蔵財産区管理委員の選任について
 横蔵財産区の管理委員に次の方を選任することに同意されました。

○ 過疎地域自立・活性化のための新立法措置に関する意見書
 過疎地域自立促進特別措置法が失効する平成22年3月以後も、過疎地域を支援するための新たな立法措置が講じられることを要望する意見書です。

○ 地方の道路整備を支える財源の確保と充実等を求める意見書
 道路特定財源について、平成20年度以後も現在の税率水準を維持する法案を成立させ、一般財源化することなく地方公共団体への配分割合を高めること等により道路整備の財源を充実させることを求める意見書です。

請願

○ 「最低保障年金制度創設の意見書」を国に提出を求める請願
 国が進める公的年金制度の動向などを勘案し、継続して審査することが決議されました。

『家族の一行詩』より

『家族へ』 中学2年 若原 史佳

みんなの笑顔は最強だよ。みんながめっちゃ笑顔だと私もめっちゃ笑顔になれるから。

ここが聞きたい
一般質問

議員6名が町政を問う

本定例会の一般質問の要旨をお知らせします。
(紙面の都合上、質問および答弁は要約しております。)

坪井 重憲 議員

問 揖斐駅前の開発と養老鉄道とJRの連絡について

今年初めに揖斐駅の開発ということで、予算をつけて準備を進めてきましたが、近鉄から養老鉄道へと変化する中で、大変紆余曲折はあったと思いますが、近々話し合いが成立すると思いき及んでいます。町長から経過と今後の方向性を説明願います。

また、新たな問題として、近鉄時代には揖斐から岐阜や名古屋まで通しのキップを買えましたが、今は養老鉄道管内のみのキップであるため、大垣駅で一度外に出てから再びJRのキップ売場でキップを購入しなくてはなりません。定期券を利用する皆さんはホームからホームへ移動できますが、一般の多くの皆さんが利用するには大変不便です。

答 宗宮 孝生町長

そこで、揖斐・池野・神戸など主要駅で管外のキップも購入できるように、3市4町の協議会で検討できないでしょうか。それができないなら、揖斐川町独自で揖斐駅にそういうものを設置できないか、あるいは、大垣駅の連絡通路にJRキップの自動販売機を設置できないものか、様々な方法が考えられますが、今後どのように改善策を養老鉄道に提言されていくのかお尋ねします。

今年度は駅南の引込線プラットホーム跡を撤去し、フラット化する事業を行うため、土地所有者である近鉄と協議を重ねてきました。11月末に、近鉄から工事の実施を承認する旨の内示があり、近々入札を実施したいと思っています。

今後、駅の西側については、パーク・アンド・ライドの駐車場、公衆トイレ、あるいは駐輪場など、地元の方々と協議をしながら、着実に整備を進めていきたいと考えています。

一方で、駅の西側は住宅等も多く、整備できる面積に限界があります。あの程度の規模の駐車場等を整備し、駅へのアクセスを改善するためには、駅の西側の整備と並行して、駅の東側の整備についても真剣に検討していく必要があります。区画整理などを行い、駅前広場を整備できるよう、地元の方々と協議していききたいと考えています。

野原 康義 議員

問 主要地方道春日揖斐川線香六川合区間のバイパス工事について

香六川合区間は非常に幅員が狭く、日常の通行に大変不便を感じています。むろん観光バスの乗り入れさえも出来ないため、この区間より西の中央、美東地区の皆さんは、やむなく途中で乗り換えをしているのが現状です。

また、当区間は特に急峻な地域でもあるため、落石もしばしば見受けられます。このような状況ですので、地区住民は安全、安心な通行が出来るよう一日も早いバイパス工事の着工を望んでいます。

香六川合区間バイパス改良事業は、すでに計画されており、一部の測量、買収も行われているようですので、今後どのように工事が進められていくのか住民は大変心配しており、今後の工

答 宗宮 孝生町長

事に期待をしています。この主要地方道は、町民の生活道路として、また観光を含めた産業道路として整備されたなら、今後、春日地区の伝統文化、自然を守ってくれる若者の定住化の促進も図ることができ、また、観光産業も大いに期待ができると考えています。現在工事は中断しています。このバイパス工事を今後どのように県へ要望していくのか、お尋ねします。

春日揖斐川線につきましては、下ヶ流工区と香六川合工区において整備計画が策定されており、全線の早期改良を要望していますが、本年3月には、下ヶ流工区でバイパスの一部供用ができました。道路整備は確実に進んでいます。

また、香六川合間の小宮神地内で、幅員の拡幅工事も県において推進しています。

9月3日には、揖斐土木事務所所長、幹部の方々とともに、春日地域をはじめ、町内全域の要望箇所を視察し、現地で道路整備などの要望を実施し、また、10月22日には、県庁へ出向き、瀬田土木整備部長に面会し、春日揖斐川線の早期改良などについて強く要望しています。

町としましては、下ヶ流工区の日も早い完成を強く要望していくとともに、下ヶ流工区に引き続いて香六川合工区の整備に着手できるよう、今後、国・県に対して強力に要望していきたく考えています。

『家族の一行詩』より

『お母さんへ』 中学3年 坂本 真愛

「正しいことは誰が止めてもつらぬきなさい。」私が困ってる時に言ってくれる母・・・世界一大好きです!

小倉 昌弘 議員

問 春日地区の下水道について

春日地区の下水道ですが、この地区は高低差も大きく、このまま進めれば完成後の維持管理費も相当かかるものと思われま。そこで、次のことについてお尋ねします。

- ① 加入件数は何件を想定していますか。
- ② 年間の維持管理費はいくらを想定していますか。
- ③ 処理場と一番低いところのトイレとの高低差は何メートルになりますか。
- ④ ポンプアップのためのポンプは全体で何機になりますか。
- ⑤ ポンプの寿命は何年を想定していますか。
- ⑥ 管路の通っているところは急傾斜地もたくさんあり、土砂崩れ等が起きて管路が壊れたとき、すぐに復旧できると思っていますか。

答 宗宮 孝生町長

本事業は合併以前から継続して事業が実施されています。旧春日村時代には、村の活性化のために必要な事業として村の総合計画にも位置づけ、当時

の関係者の皆さんの総意に基づいて実施された事業であると認識しています。そういう意味においても極めて重要な事業であると考え、議員ご質問のとおり、特殊な地形から維持管理面においても他地区に比べ高くなる部分もあるかと考えますが、供用開始された際には各戸の早期接続を行い、供用率を高め、適正な維持管理費が賄えるよう努力することが必要と考えます。

最近では、能登半島沖地震、新潟中越地震など大きな地震が発生し、道路をはじめとするインフラや、家屋の倒壊などの被害が多数発生したところで、議員ご質問の春日地域に関わらず、全国どこでもこのような危険性を持つ地域が多数存在することは皆様周知のとおりです。

揖斐川町では、こういったことに備えまして、(社)地域資源循環技術センター「ジャルス」と下水道に関する災害応援協定を締結しその体制を整えているところ です。

答 下水道課長

加入戸数は負担金の納入者の数として四百四十六戸となっています。維持管理費の件は、採択時に計画をしておりませんが、あくまで仮定ですので、維持管理業者の見積もりを頂いて確定をしていきたいと考えています。処理場と低いところの高低差に関する件については、一番低い地区は標高差約四十メートルです。中継ポンプの設置基数は22基です。ポンプの耐用年数は、一般的には、下水道事業の経済比較の際

に参考とする三省統一(環境省・国土交通省・農林水産省)の耐用年数の考え方として、使用実績を踏まえ、15年(35年とされています。現実には、それぞれのポンプの使用頻度の状況により耐用年数の程度には差異があると思

います。次に、災害に対する対応ですが、揖斐川町においては(社)地域資源循環技術センター「ジャルス」との災害応援協定を行なっており、その体制を整えています。

問 学童保育について

現在の揖斐川町の学童保育は小学校3年生までです。保護者の方から小学校6年生まで拡充してもらえないかという要望があります。今、子どもの関係する事件、事故などが数多く起きているので、小学生を一人置いて働きに行くのは心配だということです。特に3年生の子供を見てもらっている保護者にとっては深刻です。早急に来年度からでも6年生までにして頂きたいのですが、いかがでしょうか。

答 宗宮 孝生町長

留守家庭児童教室につきましては、町村合併前の平成14年度から小学校施設を活用し、開設しています。現在、揖斐小学校、大和小学校、清水小学校、小島小学校の4校で教室を開設しています。

これらの留守家庭児童教室は、児童福祉法の規定に基づき開設しているもので、教室への入室資格についても同法に準じ、小学校第1学年から第3学年のうち保護者の適切な保護が得られない児童というように規定されています。また、岐阜県の放課後児童クラブ運営基準においても、1年生から3年生の児童の受け入れを優先する旨、記載されています。

しかしながら、議員ご指摘のように、女性の社会進出に伴う共働き家庭の増加と核家族化の進行により、これらの教室に対する需要は高まってきていることは認識しています。

少子化対策や子育て家庭の保護者が安心して働ける環境づくりも必要であり、現在これらも含めて検討しています。

山本 猷治 議員

問 既設町営住宅へのテレビ接続費用について

現在、既設の町営住宅は370戸位であると聞いています。これは町の施設であることから、テレビ接続経費は公費負担となります。この費用は町のホームページによると2180万円となっています。実際に設備されたのは249戸ですが、どんな工事がなされたのか、お伺いします。同じ接続をするのに各家庭では1万7850円を支払っています。しかし、町営住宅の設備工事では単純平均すると1戸あたり8万7550円になります。1万7850円で済むところが、なぜこうもかかるのか疑問を持ちました。

答 宗宮 孝生町長

町営住宅の宅内配線に関しましては、住民の方々にもご案内しています「ケーブルテレビご利用案内」の中の基本コースまでの利用が可能となる工事について、町が費用を負担して実施しています。これは、民間アパートなどにおいて家主が、ケーブルテレビ接続工事費を負担しているのと同じ形です。具体的な内容としては、分配器、増幅器の設置工事に加えて、ほとんどの住宅で既設の宅内テレビ配線が利用できないことから、宅内配線の張替え工事、さらに緑ヶ丘住宅やさつき住宅などの集合住宅につきましては、音声告知システムの設置工事を実施しています。特に、町営住宅の既設配線の老朽化やそれぞれの住宅の形態の違いなどにより、ほとんどの住宅で宅内配線の張替えが必要となり、また二階建て以上の集合住宅では、外壁配管などの特殊工事が必要となりました。これらは、一般住宅の標準工事費にも含まれていない増加要素となっており、配線工事にかかる費用が増加し、一般住宅に比べて工事費も大きなものとなっております。

高橋 久好 議員

問 揖斐地内通学道について

12月10日に揖斐小学校が完成しました。保護者並びに地域の方々から、子供が通学する際、上新町地内の道路が

大変危険である、というご意見を多数聞いています。町内からも役場へ要望書が出してある、ということですが、どうなっているのか、お答えください。

答 宗宮 孝生町長

議員のご指摘の道路は、国道3030号と417号との交差点から北進する道路ですが、これは県道揖斐川谷汲山線であるため、岐阜県が管理している道路です。

この道路は、北進するほど道幅は狭くなり、突き当たりのT字交差点では、乗用車のすれ違いも厳しい状況であり、なおさら、歩行者の通行には安全上の問題が多いと考えています。

揖斐土木事務所では、現在、これまで国道303号と417号との交差点、従来の一方通行交差点の解消に努力して頂き、現在の姿になったところですが、交差点の形状が未だ完成形となっており、県は引き続き努力をしています。

町としては、まずこの交差点の改良を1日でも早く完成させ、それに引き続いて県道側の整備を進められるよう、県に強く要望していきたいと考えています。

問 揖斐駅駐車場並びに駐輪場の設置について

今年、近鉄が養老鉄道と生まれ変わり、現在大垣、岐阜、桑名方面などに通われる町民の大切な足として運営されています。しかしながら、揖斐駅前

の駐車場、駐輪場が設置されています。どうなっているのでしょうか、お伺いします。

答 宗宮 孝生町長

養老鉄道揖斐駅は、揖斐川町の南の玄関口として、また、公共交通の拠点として、その重要性がますます増大していると感じています。この駅周辺の整備については、今後も、地元関係者の方々と協議をしながら、着実に進めていきたいと考えています。

駐車場については、現在、駅の西側で商工会の方々が借りておられる駐車を、パーク・アンド・ライドの駐車場に切り替えてはどうか、といった議論があり、検討を進めています。

また、駐輪場については、民営の駐輪場もありますので、地元の方々とよく協議をしながら進めていきたいと考えています。

問 揖斐郡消防署分署について

揖斐郡消防署分署について、これで5回目ですが、町長に前向きに進んでいるというご意見をいただきました。現在建設予定地の埋め立ても終わり、準備も進んでいると思いますが、いつ建設される予定なのかお伺いします。

答 宗宮 孝生町長

最近の常備消防を取り巻く環境は、平成18年6月に消防組織法の一部を改正する法律が公布・施行され、消防の広域化が法定化されました。ご質問の

分庁舎設置は、この消防の広域化と密接な関係があります。

岐阜県では、今年度に入り有識者で構成する「岐阜県消防広域化推進計画検討委員会」を設置し、検討を進めているところであり、合わせて各市町村や消防本部の意見聴取も行われています。

この意見聴取の際に揖斐川町としては、生活環境の変化により、災害や事故が複雑・多様化、大規模化しており、住民の生命・身体、財産を守っていくためには、より高度な技術が求められ、消防の広域化は急務と考えていますが、803平方キロという広大な面積を有し、徳山ダムの完成や国道303号、417号の開通後は、滋賀県や福井県からの流入人口も増大し、西濃北部地域の消防・救急の拠点施設が必要である旨を強く訴えているところです。

常備消防の広域化の組合せが、西濃圏域となるのか、岐阜県一本となるかは、今後議論されますが、広域化は避けて通れない課題です。

町としては、どのような組合せで広域化が進むにしても町の抱える自然的、社会的な要因から町内の分署設置は必要不可欠でありますので、引き続き強く働きかけていきますので、ご支援、ご協力をお願いいたします。

問 いびがわチャンネルについて

本年11月からケーブルテレビによる「いびがわチャンネル」が開局されましたが、現在の放送は町内イベント録画の放送となっています。将来住民の方々に受信料に見合った放送をするため、どのようにこの放送を利用し、また、どのような番組づくりをしていくつもりかお伺いします。

『Dear Fatherへ』 中学3年 かわみつ ゆきの 川満 千乃

いつも無口な父さんだけど、本当は優しいってこと知ってるよ。そんな父さんが私の自慢だよ!!

『家族の一行詩』より

答
宗宮 孝生町長

11月1日からケーブルテレビいびがわチャンネルの放送を開始しました。この放送通信ネットワークの整備により、音声告知放送、高速インターネット通信、地上デジタル放送に対応したテレビ放送の再送信、そして地域自主放送（いびがわチャンネル）などができる基盤整備がほぼ整ったところで、揖斐川町の新しい広報媒体として、町内各地域で行われる行事やイベントなどの催し、並びに、芸術・文化・交流など各種の活動を取材して放送するほか、行政からのお知らせ、いびがわトピックスや議会放送など、町民の暮らしに役立つ身近な情報をよりよい方法を模索しつつ提供していきたいと考えています。

「いびがわチャンネル」の番組づくりについては、識見者10名で構成される番組審議会の組織を9月に立ち上げました。今後は審議委員の皆さんに放送内容をご審議いただき、ご意見を賜りながら番組作りを行なっていくことになっていきます。

加入者にご負担いただいている利用料は、「いびがわチャンネル」の番組制作に関する料金ではなく、この放送通信ネットワーク施設の設備維持費に充当する施設利用料であることをご理解賜りますようお願いいたします。

林 幹夫 議員

問
一人暮らしの高齢者世帯について

日本の人口は、出生が死亡者数を下回る自然現象が引き続き、30年後には8千万人程度に減少するといわれる中で、男女の平均寿命が80歳を上回っている長寿社会から、必然的に一段と少子高齢化が進みます。

揖斐川町の人口は、11月末で2万5547人と、合併2年半で千人も減少しました。年齢別分布は、65歳以上の高齢者が28%で、15歳までの若年層の13%に対し、2.15倍となっています。

12月の県議会でも、20〜30歳代を中心に就学・就職などで年間約4千人が県外に流出しているのが問題だと知事が答弁されていますが、揖斐川町の人口統計でも若い世代の町外流出がはつきりと現れております。

町の高い高齢化の中で危惧されるのは、10月末での一人暮らしの高齢者世帯が700世帯を上回っており、これは全体の8.8%で、さらに地域によつては25%にも達していることです。そして、同居となつてはいるが実際には家族は遠隔地で生活して、3軒に1軒が一人暮らしの地区もあるもので、その数は千世帯余となります。

最近、孤独死についての痛ましい報道がされていますが、これは言葉では表すことのできない事柄で、町から孤独死を絶対に出したくないものです。

少子高齢化と長寿社会の世帯において、行政は高齢者対策、とりわけ一人暮らしの高齢者に対して、災害が発生したときの安否確認はもとより、日常生活においてもしっかりと見守つてゆく体制を確立させねばなりません。

19年度に町の社会福祉協議会が、住宅地図に高齢者宅を記載し、これを民生委員や行政推進員の皆さんにも活用していただく方策を実行されました。そして町では、以前から一人暮らし世帯に無線機器のついた高齢者専用の電

話を取り付けるなど、その対応は一步步つ前進はしています。

しかし、一人暮らしの高齢者の日々の生活は、通院あり、外泊あり、そして施設への入所や親族の移動等の変動が多く生じて、世帯数も日々変わり、実態の把握が困難です。一方、高齢者を見守る側も少人数では広範囲にわたる日々の掌握には限界があります。中でも、災害が発生すると地形が一変し、双方共に行動が極端に奪み取られるので、近隣の人しかその所在は掴みきれません。そのことから、一歩踏み込んで近隣で見守りをしていただける人づくりが急務と思います。当事者を熟知されている人をお願いする制度を確立することが良策で、そのことが高齢者も安心して暮らせる町づくりにつながるものと思えます。

一人暮らしの高齢者世帯の日々の見守り、緊急時の確認をどのような体制で対応されるのか、その方向性をお伺いします。

答
宗宮 孝生町長

一人暮らしの高齢者に対する国や県の助成については、平成12年に介護保険制度が始まって以来縮小、廃止され、高齢者世帯の安全確保の施策が示されない中、本町では、一人暮らしの方を中心に緊急通報のボタン電話の設置や配食サービスの事業を実施し「見守り」をしているところです。

平成18年度には、福祉総合相談の充実と福祉サービスの向上を目指し、揖斐川町地域包括支援センターを設置しました。一人暮らし老人や高齢者世帯の把握などを目的に「おたっしゅカード」を作成し、さらに社会福祉協議会とも協力し、地区懇談会を開催し、要

援護者のマップを作成し、把握に努めているところです。

さらに、本年度から、地域で支え合う仕組みを作る「揖斐川町地域福祉計画」の策定を始めています。

本年度は、社会福祉協議会とともに、現在、町内各地区で、地区懇談会を開催し、行政推進員、民生児童委員、福祉委員の皆さんにお集まりいただき「たすけあいおこし」をテーマに話し合いを行っております。まさに、議員の言われる「近隣で見守つていただける人づくり」に努めているところです。

この計画を策定する中、これからますます進展していく少子高齢化について、地域の皆さんが中心となって「見守り体制」などについての意見やアイデアを出していただき、協力し合う仕組みを考えていきたいと思っております。

今後「地区懇談会」開催の折には、皆さんに参加いただき、これからの「地域づくり」などのご意見をいただきましたと思います。

議会活動報告

- 11月 16日 第11回議員定数検討特別委員会
- 27日 第12回議会運営委員会
- 12月 7日 第9回定例会（第1日）
- 7日 第12回議会全員協議会
- 10日 第6回総務文教常任委員会
- 11日 第4回健康福祉常任委員会
- 11日 第4回産業建設常任委員会
- 13日 第9回定例会（第2日）
- 14日 第9回定例会（最終日）